

# 富山・願海寺城跡

がんかいじじょう

所在地 富山市願海寺

調査期間 二〇〇四年（平16）一〇月～一一月

発掘機関 富山市教育委員会埋蔵文化財センター

調査担当者 土生朗治・戸部孝一

遺跡の種類 城館跡・城下町跡

遺跡の年代 戦国時代

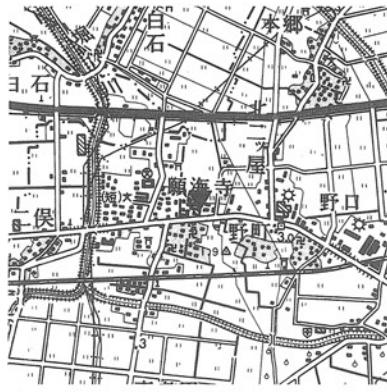
7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

願海寺城は、富山市西部の射水平野に所在した平城である。天文

二一年（一五五二）から天正九年（一五八一）まで存在し、上杉謙信

方の武将寺崎民部左衛門盛  
永が拠つた。二〇〇二年の  
調査では、堀・土橋・井戸  
を検出し、城郭の曲輪部分  
を確認している。

今回の調査は、曲輪から  
北東へ四五〇m地点の城下  
町域で行ない、方形居館の  
区画溝や土坑を検出した。



(富山)

出土遺物には、中世から近世初期までの陶磁器、漆塗椀・皿、下駄、曲物、折敷、箸、木簡、櫛、陽物形、砥石、石臼、壺、鎌、笄、北宋錢などがある。

木簡は、区画溝内から一点出土した。

8 木簡の糸文・内容

(1) [正月カ] 〔当カ〕  
□□卅日迄見□□□女□

(125)×21×1 019

上端は山形で、下端は折損している。樹種はスギである。墨痕は明瞭でなく、期限を定めた内容が読み取れるが、詳細は不明である。なお、糸文にあたっては、加藤達行氏のご教示を得た。

9 関係文献

富山市教育委員会「願海寺城跡発掘調査報告書」（二〇〇五年）

（古川知明）

